

茨城県支部会報

URL : http://www.engineer.or.jp/c_shibu/ibaraki/E-mail : ibaraki@engineer.or.jp

目次 ・ 新年講演会における支部長ご挨拶 1
・ 新年講演会 ・ 交流会開催 2

新年講演会における支部長ご挨拶

～活動の成果を踏まえ、さらに活動の場を広げよう～

茨城県支部 支部長 本田 永信

新年おめでとうございます。昨日は大寒で雨も降る寒い一日でした。今朝は晴れ上がりましたが相変わらずの冷え込みの中、新年講演会・交流会にご出席いただきありがとうございます。また、ご来賓の方々には土曜日にもかかわらずご列席賜り誠にありがとうございます。

今朝はビデオに撮ったトランプ大統領の就任演説を聞きました。確かに強さは必要だなとおもいました。私は勝ち負けの強さもさることながら思いやる心を支えるにも経済力も含めた強靱なねばり強さが大切かなと思いました。

今年の新年講演会は、技術士の加藤木様の「那珂湊の反射炉」があります。幕末に大砲を铸造したものです。また、特別講演として茨城県商工労働環境部の理事兼次長の中嶋様の「茨城県の製造業の現状と支援施策」があります。茨城県の技術の歴史と現在の製造業への取り組みであり期待しています。

昨年は、新年講演会に始まり、合格者祝賀会・講演会、年次大会・講演会を開催しました。また、その他の月には、CPDの講座と見学会を開催しています。夏休みには「土浦図書館のこども講座」「茨城県霞ヶ浦環境科学センター夏祭り」、11月には「青少年のための科学の祭典ひたちなか大会」に出展しています。また、3年ぶりにひたちなか市の堀口小学校の全校イベントに参加しました。今回の目玉は冷蔵庫のダンボールを使用した巨大空気砲でした。特に今年度から県のおもしろ理科先生派遣事業に参加する技術士を支援しており、7月、8月、10月と県内各所への派遣を支援しています。中小企業関係では2月、7月の工業技術センターでの発表会にスペースをいただき技術士会の紹介展示をしています。また、関係機関と連携したものづくり関係補助金への活動にも取り組んできております。新しい試みでは、8月に有志の技術士グループとなつてしまいましたが、いばらきオープンテクニカルフォーラムに参加しております。IoT活用による地方創生の加速ということで企業の生産効率の向上、経営革新に期待しています。さらに修習技術者支援活動も動き始めております。

さて、茨城県支部もスタートから五年たち、それぞれに活動は着実に定着してきていると思っておりますが、さらに幅を広げていく必要性を感じております。なにぶんにも限られた運営メンバーでありプロモートするスタッフが少ないのが現状です。本日県から配布されている「模擬スマート工場」の稼働案内にあるように、IoT・ロボットをとり入れたスマートファクトリーへの取り組みにも皆さまのご協力が必要です。是非、委員会に入ってプロモート活動していただければと思っています。もちろん役員として活動していただければ大歓迎です。今年は役員選挙の年です。是非立候補をお願いします。茨城県支部事務局までご連絡下さい。メールは ibaraki@engineer.or.jp です。お待ちしております。本年もご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。



本田支部長

2017年の活動に向けて
本年もどうぞ
宜しく願いいたします
役員一同



2017 年新年講演会・交流会開催

2017 年 1 月 21 日(土)、新年講演会・交流会をひたちなか市ワークプラザ勝田で開催した。

国立研究開発法人科学技術振興機構副理事の齊藤仁志氏、自治体の関連機関ほか、約 60 名の方々をお迎えして盛況であった。

来賓を代表して齊藤氏にご挨拶いただいた。ご挨拶の中で、科学技術振興機構の活動や技術士会との関係を紹介され、さらなる連携強化の考えを示すとともに、技術士会からのさまざまなアイデアの提案を呼びかけられた。

今年の講演会は 『茨城県の技術遺産と製造業支援施策』をテーマに行われた。茨城県産業技術短期大学の加藤木和夫氏(技術士:情報工学)には『那珂湊の反射炉』と題して、茨城県商工労働観光部理事兼次長の中嶋勝也氏には『茨城県の製造業の現状と支援施策』と題してご講演いただいた。新年にふさわしく今後の事業における継続的な改善と発展について学ぶことができ、良い機会であった。



挨拶する本田支部長



挨拶される齊藤仁志氏



盛会の新年講演会

◆ 講演 1 「那珂湊の反射炉」

茨城県産業技術短期大学校
技術士(情報工学)加藤木和夫氏

ご講演では、幕末における反射炉建設の意義に始まり、建設に関わった人々、その人たちの尋常ならぬ苦勞、他藩に比べて製造砲が少ない理由、そして現在の製鉄技術との関連など多岐に亘る内容を丁寧に御説明いただいた。

特に他藩に比べて製造砲が少ない理由は、原料入手困難、開発体制の不備、建設を主導した徳川齊昭の蘭学嫌いに起因する後継者育成の失敗などによるとの事であったが、このような困難にも負けず、16 門(ないしは 18 門)の生産実績をあげた事は賞賛に値するものと思われる。併せて、砲身をくりぬく水車場の説明もしていただいたが、模型や残されている図から、その仕掛けが極めて精巧であった事がわかり、当時の水戸藩の技術水準の高さを認識させられた。

那珂湊の反射炉が幕末の政治のうねりに翻弄されながらも、関わった人たちの努力と工夫により、我が国の製鉄技術史に大きな遺産を残した事に、参加者一同、深い感銘をうけたものと思われる。

幕末にあって茨城の地が先進技術を揺籃し、その後の日本の発展を導いたという点において平成 29 年の新年講演会に相応しいものであった。昨年後半からの予測できない政治、社会の動きにともすれば翻弄されがちな日々、郷土の歴史的遺産に思いを馳せ、技術士としての心構えを新たに与えていただいた事に深く感謝申し上げます。



講演される加藤木和夫氏

◆特別講演 「茨城県の製造業の現状と支援施策」

茨城県商工労働観光部 理事兼次長
中嶋 勝也氏

茨城県の製造業の製造品出荷額は全国第8位であり、出荷額も11兆円前後の状態をここ10年間キープしており、その約60%は中小企業が占めている。また、一事業所あたりの出荷額、付加価値額は中小企業で大きく増加している。しかし、事業所数は平成26年には平成2年の55%と大幅に減少している。特に従業者数30人未満の事業所が大幅に減少しており、今生き残っている中小企業は厳しい事業環境の中で成長を続けてきた。

県北、県央、県南、県西、鹿行の地域ごとに見ると、事業所の少ない県央を除きいずれも2.5兆円から3兆円の製造品出荷額があり、地域ごとに特徴ある事業が展開されている。「元気なものづくり中小企業」、「がんばる中小企業・小規模事業者300社」、「はばたく中小企業・小規模事業者300社」には多くの県内中小企業が選ばれた。

中小製造業の課題として、①新たな分野や市場への進出や多角化、②グローバル価格に負けないコスト競争力や生産性向上、③基盤技術の高度化や研究開発力の強化による提案力の向上、④従業員の確保・育成、が挙げられ、新たな波（AI、ロボット、IoTなど）への対応も不可欠である。

これらの課題に対する支援として、産業政策課では、①金融面の支援、②創業ベンチャー等の支援、③海外展開の支援、④成長産業分野の進出支援、などの施策を行っている。産業技術課では、①新製品・新技術開発等の技術面の支援、②受注機会・販路拡大の支援、③地場産業の振興、などの施策を行っている。職業能力開発課では、新規学卒者、中小企業等の在職者の職業訓練、などの施策を行っている。

特に産業技術課に属する茨城県工業技術センターでは、県内中小企業の技術開発などを多角的に実施している。支援内容は、①技術相談、②依頼試験、③設備使用、④研究開発、⑤受託研究、⑥人材育成、⑦製品化・実用化支援、⑧次世代技術活用人材戦英事業、⑨IoT等自動化技術導入促進事業、など多岐にわたる。

支援内容詳細は商工労働観光部ホームページから「中小企業支援施策ガイドブック」がダウンロード可能である。最後に技術士が上記支援策を活用して中小企業の技術経営の指南役として活動することが望まれる。



講演される中嶋勝也氏

◆交流会

講演会終了後、講演された加藤木氏、中嶋氏、来賓の方々を含め約50名が出席され、「遊々亭」において佐藤副支部長の司会で交流会が賑やかに開催された。

本田支部長の挨拶に続き、講演者を代表されて茨城県商工労働観光部理事兼次長中嶋勝也氏から茨城県の産業振興にご協力いただきたいとのお挨拶をいただき、引き続きご来賓を代表されて茨城県中小企業団体中央会専務理事岩間伸博氏から中小企業支援をお願いしたいとのお挨拶をいただいた。続いて(株)日立製作所インフラシステム社社会情報システム部主管柴垣琢朗氏の発声で乾杯が行われ、歓談に移った。講演者の方々を中心に会場は大いに盛り上がり、最後に岸副支部長の締めで新年講演会は成功裏に終了した。



盛り上がった交流会

編集後記

- ◆茨城県支部会報第9号では、2017年新年講演会・交流会の模様をご報告いたしました。
- ◆「中小企業支援小委員会」「理科教育支援小委員会」「修習技術者支援小委員会」が開設され、活動の場が拡大するとともに、その成果も出てきました。これからも技術士会の活動が活発になってゆくよう、会員諸氏の積極的な参加が望まれます。
- ◆今年は役員選挙の年です。新たな役員が選出され、若いエネルギーが注入されることでしょう。 (Hm)

広報委員会：松本 宏(委員長)、石田 正浩、野口 芳樹、堂本 隆、荻原 寛

・情報提供は、E-mail：matsumoto_pe@net1.jway.ne.jp(松本)まで

技術士プロフェッション宣言

われわれ技術士は、国家資格を有するプロフェッションにふさわしい者として、一人ひとりがここに定めた行動原則を守るとともに、公益社団法人日本技術士会に所属し、互いに協力して資質の保持・向上を図り、自律的な規範に従う。

これにより、社会からの信頼を高め、産業の健全な発展ならびに人々の幸せな生活の実現のために、貢献することを宣言する。

技術士の行動原則

- ① 高度な専門技術者にふさわしい知識と能力を持ち、技術進歩に応じてたえずこれを向上させ、自らの技術に対して責任を持つ。
- ② 顧客の業務内容、品質などに関する要求内容について、課せられた守秘義務を順守しつつ、業務に誠実に取り組み、顧客に対して責任を持つ。
- ③ 業務履行にあたりそれが社会や環境に与える影響を十分に考慮し、これに適切に対処し、人々の安全、福祉などの公益をそこなうことのないよう、社会に対して責任を持つ。

プロフェッションの概念

- 1 教育と経験により培われた高度の専門知識及びその応用能力を持つ。
- 2 厳格な職業倫理を備える。
- 3 広い視野で公益を確保する。
- 4 職業資格を持ち、その職能を発揮できる専門職団体に所属する。